



# 歌詞の意味

掛川小学校 校歌

一 三百年のその昔

尾張の藩祖 大納言

源敬公が慕われし

応夢の山はほど近し

二 原生林に囲まれて

歴史を語る石碑は

一望十里の平原に

望みて建てり永久に

三 源遠き玉川の

清き流れを眺めつつ

学びの道に勤しみて

いよよ励まんいざ共に

「三百年のその昔…」で始まる掛川小学校校歌は卒業生である人なら誰でも口ずさむことのできる懐かしい歌です。

ところが、その歌詞の内容となるとちょっと分かりにくいと感じている人もいるのではないのでしょうか。

「小学校」と「源敬公」がどういう関係があるのか、「歴史を語る碑」とは何をさしているのか、などなど。格調の高い歌詞ではありますが、その意味を理解するには作詞された当時の時代背景や掛川地区と尾張徳川家との結びつきなどが分かっていないとなかなかむづかしいものがあります。

やまびこ第4号のコラム「校歌の謎」で取り上げた「中島全能和尚の覚え書き」を調べてみると校歌がどのような組み立てで作詞されているのかがよく分かります。覚え書きには校歌の歌詞が1番から3番まで書かれています。それぞれの歌詞の下に**学校の位置**、**英雄崇拜**、**奨学**の三つのメモ書きが残されているのが見つかったのです。これは校歌の柱だてを示すもので、歌詞解釈の手がかりとなる重要な発見でした。

- 1番 学校の地理的位置
- 2番 徳川義直公をたたえる
- 3番 奨学の奨励

これをもとに平易なことばで校歌を

現代語風に意識してみました。

- 1番 三百年ほど前に尾張の初代殿様源敬公（徳川義直公）が親しまれた応夢山は学校のすぐ近くにある。
- 2番 源敬公の歴史を語る碑は原生林の中から遠く濃尾平野を見渡せる位置にいつまでも立ち続けている。（碑とは廟所にある義直公の墓標をさすものと思われる）
- 3番 遠くに源を発する玉野川の清流はたゆむことなく流れ続けている。その流れのように途中でくじけたり怠けたりしないでさあ、共に勉学に精を出そう。

